



【特集】

技

空き店舗につくる、よく眠れる部屋

～低コストを守り、要望を満たす～

●お嬢さまに独立した部屋を

今回ご紹介するのは、富山県下新川郡朝日町の高木様のおすまいのリフォーム。すでに閉店された衣料店の二階、空きスペースの一部に部屋をつくられた。

高木様のお宅は、もともと店舗と共有した建物だったが、お嬢さまの部屋がトイレに近いことで近年問題が生じてきていたという。

「わたしたち夫婦は、としをとるにつれて夜中にトイレを使うことが増えてきました。それで、娘が安眠できないのでトイレから離れた部屋がほしいと、ずいぶん前から言っていました」と文子さん。しかし、リフォームにもお金が相当かかると思っても「そのうちいつか」と部屋をつくる話は具体化せずにはいた。

●『箱みたいのでいいから』

「ところが、主人が技のリフォームさ



▲白を基調としているので、明るくより広く感じる部屋。

んに別件の相談をしたことから娘の部屋のお話になり、『箱みたいのでいいから』とお願いしたら、とんとんと話が進んで実現しました」

担当者も、「リフォームという点、当初の予算や計画を超えて、どんどん大掛かりで費用もかさむ仕事になっていくケースが少なくないですが、小さな仕事も予算を抑えてやらせていただきますよ」という。

低予算でやる。良心的なリフォームに取り組む姿勢がうかがえる言葉だ。

●安く、しかも要望は満たす

- 1 既存の廊下を通して、家族の共用居住スペースから直結する場所に部屋をつくる。
- 2 窓をつける。
- 3 14畳ほどの広さ。
- 4 収納場所を十分にもつける。
- 5 静かで、断熱効果のある部屋。



▲パイプハンガーを取り付けたクローゼットは衣類がじゅうぶん収納できる。天袋もかなり広い。



▲プライベートルームとして独立しているのに、共用部分に行きやすい。この通路から家族の居室へ入って行ける。



▲クロスを貼って再利用されたドア。ドアノブをレバーハンドルに取り替えている。

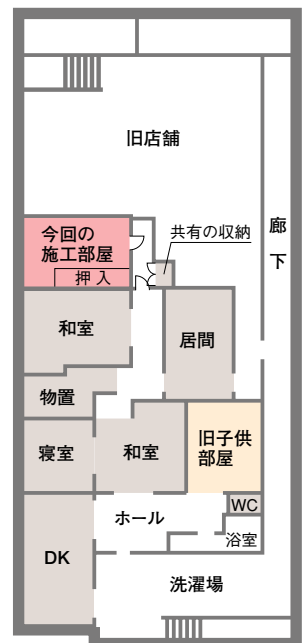
●壁を貫いてつけた小さな窓

それでも、町中の店舗の二階である。

これらの要望すべてを満たし、施工費用は140万。エアコンもついた。床はグラスウールのマットを敷き、断熱と遮音の効果を図った。

費用をかけない工夫もあった。奥様の文子さんがお店の移転や閉店の際に捨てずに保管していた「ドア」を再利用したのである。「昔人間ですから、もったいないと思ってとっておいたものを使ってもらえました」

合板にクロスを貼ったり、握り玉のドアノブをレバーハンドルに取り替えることでみちがえるものとなった。



▲採光・通風の縦軸窓。窓拭きもできる仕様。

高木様のお店は閉業されたが、一階は現在貸し店舗となって、他者が使用されているため配慮が必要だった。建材の搬入もラクではない。工事音の階下への影響も考えて「工具を『原始的』なものにして音を小さくするよう努めました」と担当者。

また、鉄骨構造のリフォームのむずかしさだが、今回の場合もプレス（壁の耐久性を強めるための筋交い）が邪魔をし、窓をしつらえるのも簡単ではなかった。

「開口部を大きくしようとするとか、開閉部を大きくしようとするとか、隣家との関係からも開口部をどうとるかむずかかったですね」

しかし、採光・通風のための窓をとることは施主の強い要望だった。担当者は壁の筋交いの通らない部分をくりぬいて、縦軸回転で開くコンパクトなサッシ窓をつけた。

施主の要望すべてを低予算のままに満たした、シンプルだが快適な部屋づくり。

取材から感じたことは担当者は施主のどんなことばにもよく耳を傾ける人だということ。つまり、施主と施工担当者との、温か度率直にものを言い合える人間関係に成功の力があるということである。

今月のオーナー訪問



高木 文子様

『ここかく』

娘が喜んでくれます』

この部屋を使うようになって、以前の部屋との違いがづくづくわかったようで「あんなところでよく寝ていたものだ」と言っているくらいです。

技のリフォームさんとは長い付き合いですが、土木や大きな建設工事やっていたらしゃる会社ですから、小さい仕事は頼めないだろうと思っていました。でもほんとうに、よくしていただいで感謝、感謝です。



技のリフォーム

イワサ ミセマス
0120-183-304